



Vol 175 「たくさんあって分からない…」 決算(分配)頻度は投資の目的にあわせましょう

気が付けば8月も終わり。まだまだ先だと思っていた「新NISA」まで、あと4カ月ほどとなりました(2024年1月開始)。今回はそんな「新NISA」を考えるとときにも避けて通れない投資信託の「決算」や「分配金」について改めて見ていきたいと思います。

投信は企業と同じように「決算」が義務付けられています。一方で、上場企業の決算は年4回あるのに対し、投信は商品によってさまざま。よく耳にする「毎月分配型(毎月決算型)」や「1年決算型」のほかにも、「隔月(年6回)」や「年4回」、「年2回」などのバリエーションがあり、同じ運用の投信でも決算頻度によって複数のコースがあることも。どれを選べばいいのか分からない...という声も耳にしますが、そもそも複数の決算頻度がある理由は、投資家のニーズにあわせているからなのです。

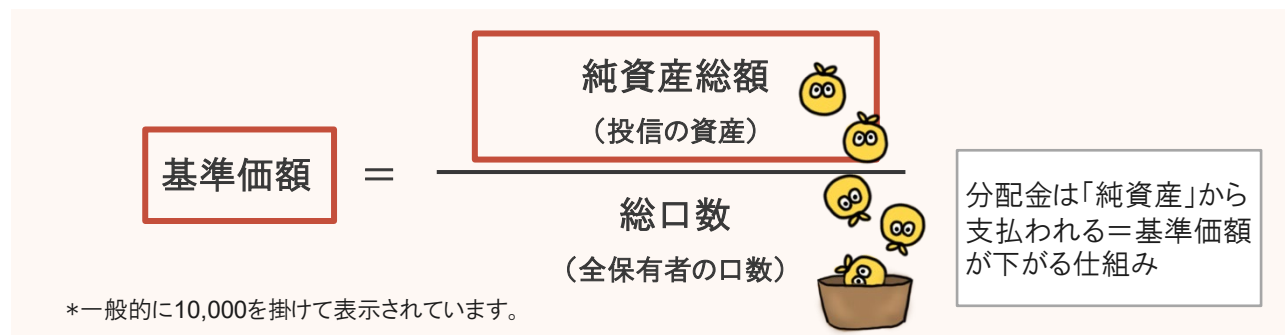
決算頻度の違いとは、分配頻度の違いともいえるかもしれません。決算日にはファンドの財務状況を明らかにすることに加え、運用会社の判断で運用成果の一部を投資家に還元することがあります。これを分配金といい、「毎月分配型」のように年間に多くの決算を行なうタイプの投信は、まさにこの分配金の定期的な支払いを目的としたもの。手元にお金が入ってくると嬉しい、ましてや定期的に安定的な金額が受け取れるのであればなおさら...とこのタイプに人気が集中していた時期もありました。



※イメージです。

分配金は基準価額を下げる要因に！

ここで気を付けなければいけないのは、「預貯金の利息」などとは違い、分配金は投信の純資産から支払われる、ということ。



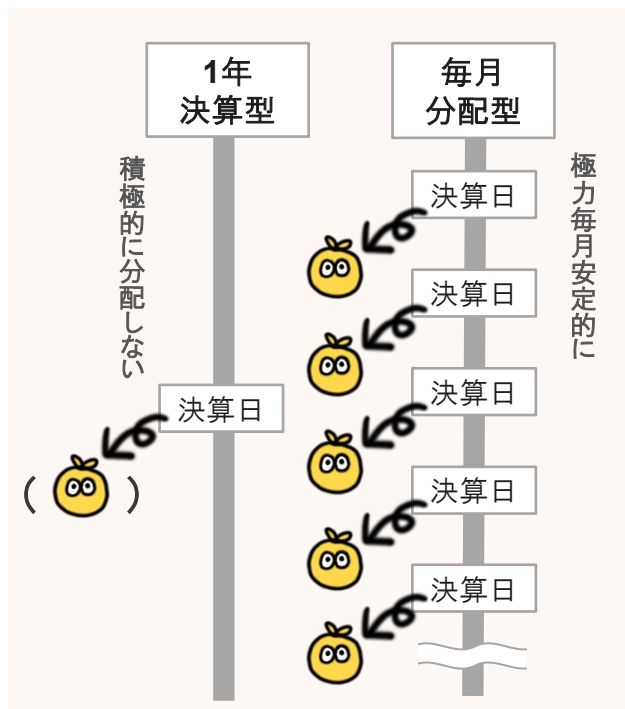
※上図はイメージです。

投信の基準価額は純資産総額を総口数で割ったものですから、分配金を出すとその分、基準価額も下がってしまいます。分配金は決して「お得なモノ」ではないのです。分配をする投信はその分だけ純資産が増えづらいため、長期の資産形成には向いていない傾向にあります。従来よりもさらに長期投資をあと押しする形となる「新NISA」では「毎月分配型」は対象外になっているので、制度を利用する予定の方は意識して投信選びをする必要がありそうです。

長期の資産形成なら 「分配されない」メリットに注目

長期投資を考えるなら、決算頻度は少ない方が効率的。「1年決算型」はその名の通り年に1度決算を行なうもので、資産の成長を重視するため積極的に分配を行わないタイプも多くあります。

投信の中で運用中のお金を定期的に払い出さないことになるので、将来を見据えて長期で増やそうという資産運用に向いているといえます。



※決算頻度の少ない1年決算型のような投資信託であっても、分配を行なう場合があります。※上図はイメージです。

分配金は受け取らないこともできるけど...

「1年決算型」とよく比較されるのが決算頻度の多い投信の「分配金再投資コース」です。販売会社によっては、分配金は「受取り」と「再投資」を選べるようになっていいます。「受取り」は指定した金融口座で分配金を受け取るもの、「再投資」は支払われた分配金を受け取らずに再投資に充てるものです。「再投資」では購入の手数料なしに口数を買増すことができ、複利効果を狙うことも可能となります。

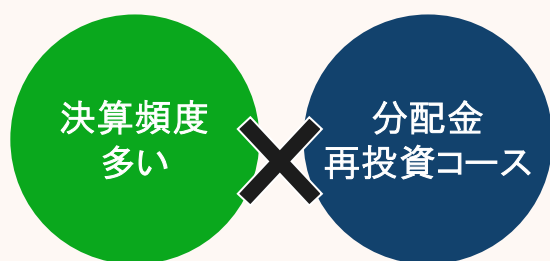
分配金
受取りコース

分配金
再投資コース

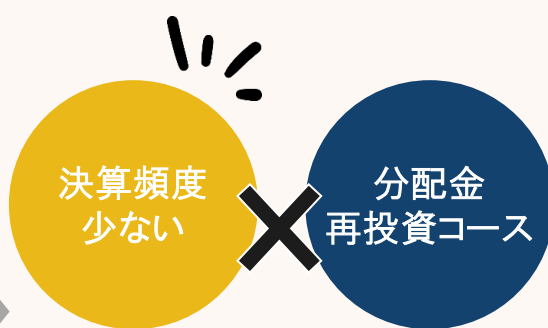
分配金の受取りニーズがなければ、再投資コースを選ぶのもいいけれど...

では「1年決算型」と「分配金再投資コース」の効果は「同じ」だといっていいのでしょうか？ 答えは「いいえ」。なぜなら分配金は課税対象(※)であり、「再投資コース」も「一度分配金を受け取った」という扱いになるので分配のたびに税金がかかるのです。資産形成を重視するなら、分配方針などを確認したうえで、同じ運用の投信の中から決算頻度の少ないものを、さらにこの場合も「分配金再投資コース」を選ぶのがよさそうです。

長期の資産形成が目的なら——



分配金を受け取らないのなら、**そもそも高頻度分配のものを選ぶ必要はないのかも？**



同じ運用の投信なら、「決算頻度が少ない」方が**長期の資産形成には効率的！**

※但し分配金のうち運用益から支払われる「普通分配金」と違い、「元本払戻金(特別分配金)」と呼ばれる分配金は元本の払い戻しとみなされるため、非課税になります。「元本払戻金(特別分配金)」は分配金が支払われた後の基準価額が個別元本より低い場合に支払われる分配金です。

投資の目的をハッキリさせる。それが一番の近道です。

さて、この流れですと「分配頻度の高い投信はやめた方がいいの？」という話に聞こえそうですが、それはお客様の目的次第。例えばリタイア後にも口座に定期入金してほしい…など、分配金の仕組みを理解した上で、自分のニーズに合っているのであれば何も問題はありせん。「新NISA」でも分配金の受取りを希望したい、という場合は「隔月（年6回）分配型」などの頻度で検討してみるのもひとつの手です。

問題なのは、「分配金はお得だ」という思い込みや、逆に「高頻度分配はよくない」という巷の声だけで選ぶこと。その意味とそれぞれのメリット・デメリットを考えた上で、投信をご自身の資産形成にお役立てください。

目的は……



nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

日興アセットマネジメント